

令和7年度北見支援学校 学校評価保護者アンケート結果

※ よくあてはまる（4点）、あてはまる（3点）、あまりあてはまらない（2点）、あてはまらない（1点）、分からない（0点）

	No.	保護者の評価項目	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	分からない	平均点 (満点4点)
学校運営	1	学校は、働き方改革を進め、業務の効率化・合理化・組織化等により充実した教育活動を行っていますか。	28.8%	56.1%	0%	0%	15.1%	3.3
教育活動	2	学校は、個別の教育支援計画・個別の指導計画について、児童生徒に応じた目標や評価、情報等を分かりやすく書いていますか。	68.5%	30.1%	1.4%	0%	0%	3.7
	3	学校は、通知表「成長の記録」について、学習成果等を分かりやすく書いていますか。	75.3%	24.7%	0%	0%	0%	3.8
	4	学校は、児童生徒に対して適切な言葉遣いや態度、身だしなみで指導・支援を行っていますか。	52.1%	41.1%	2.7%	0%	4.1%	3.5
生徒指導	5	学校は、児童生徒の人間関係の構築やいじめについて、適切な指導・支援を行っていますか。	41.1%	47.9%	1.4%	0%	9.6%	3.4
進路指導	6	学校は、進路に関する情報について、分かりやすい説明や情報提供を行っていますか。	43.8%	45.3%	4.1%	0%	6.8%	3.4
保健指導	7	学校は、児童生徒の健康観察・健康診断等を行い、適切な保健指導を行っていますか。	58.9%	38.3%	1.4%	0%	1.4%	3.6
安全指導	8	学校は、実際の防災訓練や交通安全指導を行っていますか。	56.2%	37.0%	0%	0%	6.8%	3.6
学級会計	9	学校は、学級費を適切に使い、保護者へ使途等について十分な説明を行っていますか。	71.2%	27.4%	0%	0%	1.4%	3.7
保護者との連携	10	学校は、ホームページや各種便り、メール配信サービス「案メ」等で分かりやすく、適切に情報発信を行っていますか。	45.2%	50.7%	4.1%	0%	0%	3.4
地域との連携	11	学校は、地域の人的・物的資源を活用し、地域や関係機関と連携した活動を行っていますか。	38.4%	42.4%	4.1%	0%	15.1%	3.4
P T A活動	12	学校は、社会情勢を踏まえ、保護者と教職員が連携し、PTA活動を行っていますか。	37.0%	57.5%	1.4%	0%	4.1%	3.4
スクールバス	13	(スクールバス利用のご家庭のみお答えください) 学校は、スクールバスの安全運行を目指した取組を行っていますか。	60.1%	34.5%	1.8%	0%	3.6%	3.6
					全体平均点			3.5

令和7年度北見支援学校 学校自己評価【教職員】結果

※ よくあてはまる（4点）、あてはまる（3点）、あまりあてはまらない（2点）、あてはまらない（1点）

項 目	No.	教職員の評価項目	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	平均点 (満点4点)
学校運営	1-1	学校は、働き方改革を進め、業務の効率化・合理化・組織化等により充実した教育活動を行っている。	4.2%	74.7%	19.7%	1.4%	2.8
	1-2	学校は、ICTを有効に活用し、計画的・効率的に業務を行っている。	5.6%	80.3%	14.1%	0%	2.9
	1-3	学校は、服務規律の保持や不祥事防止について取り組んでいる。	36.6%	59.2%	4.2%	0%	3.3
	1-4	学校は、環境の整備や節約について取り組んでいる。	15.5%	63.4%	21.1%	0%	2.9
	1-5	学校は、学校は、同僚の心身の健康維持に気を配り、業務を行っている。	12.7%	53.5%	28.2%	5.6%	2.7
	1-6	学校は、初任者・転入者に対して適切な研修を行っている。	11.3%	77.5%	9.8%	1.4%	3.0
教育活動	2	学校は、専門的な知識の基、児童生徒の教育的ニーズ（個別の教育支援計画・個別の指導計画）に応じた指導・支援を行っている。	14.1%	76.1%	9.8%	0%	3.0
	3	学校は、ICT機器の活用や学習評価をととして、学習指導の工夫・改善を行っている。	8.5%	70.4%	21.1%	0%	2.9
	4	学校は、児童生徒に対して適切な言葉遣いや態度、身だしなみで指導・支援を行っている。	5.6%	74.7%	16.9%	2.8%	2.8
生徒指導	5	学校は、児童生徒の人間関係の構築やいじめについて、適切な指導・支援を行っている。	14.1%	81.7%	4.2%	0%	3.1
進路指導	6	学校は、児童生徒及び保護者のニーズを踏まえ、分かりやすい説明や情報提供を行っている。	9.9%	80.2%	9.9%	0%	3.0
保健指導	7	学校は、児童生徒の健康観察・健康診断等、適切な保健指導を行っている。	29.6%	66.2%	4.2%	0%	3.3
安全指導	8	学校は、実際の防災訓練や交通安全指導を行っている。	35.2%	57.8%	5.6%	1.4%	3.3
学級会計	9	学校は、学級費を適切に使い、保護者へ使途等について十分な説明を行っている。	26.8%	70.4%	2.8%	0%	3.2
保護者との連携	10	学校は、ホームページや各種便り、メール配信サービス「楽メ」等で情報を分かりやすく、適切に保護者に伝えている。	21.2%	74.6%	4.2%	0%	3.2
地域との連携	11	学校は、地域の人的・物的資源を活用し、地域や関係機関と連携した活動を行っている。	5.6%	81.7%	9.9%	2.8%	2.9
P T A 活動	12	学校は、社会情勢を踏まえ、保護者と教職員が連携し、PTA活動を行っている。	9.9%	78.8%	11.3%	0%	3.0
スクールバス	13	学校は、スクールバスの安全運行を目指した取組を行っている。	54.9%	45.1%	0%	0%	3.5
教職員向け追加評価項目（グランドデザインの柱より）	14	児童生徒の力を最大限発揮するために「つなげる」指導・支援を行っている。（APDCAサイクルの確立等）	14.1%	73.2%	12.7%	0%	3.0
	15	児童生徒が中心の「つながり」に基づいた指導・支援を行っている。（学年・学部間交流、支援体制づくり等）	9.9%	77.4%	12.7%	0%	3.0
	16	地域の人材や資源を教材として「つなげる」学校づくりを進めている。（学校運営協議会、外部関係機関との連携等）	8.5%	81.7%	7.0%	2.8%	3.0
	17	児童生徒がいかにあるべきか考えられ、児童生徒が主語の学校である。（児童生徒の人権尊重、一人一人に応じた教育プランの共有等）	14.1%	74.6%	9.9%	1.4%	3.1
	18	健康安全・防災安全・服務規律・心理的安全が重視され、互いに気付き合える安心・安全な学校である。（複数の目の確認、発信しやすい環境、役割の明確化等）	15.5%	70.4%	12.7%	1.4%	3.0
	19	アサーティブでやわらかな心があり、教職員にとって働きやすい学校である。（日頃からの働きやすい職場づくりの確認等）	9.9%	56.3%	31.0%	2.8%	2.7
					全体平均点		3.0

令和 7 年度学校評価結果の分析

1 保護者アンケート結果について

（１）回収率及び基準点

回収率は 69.5%でした。また、評価点 3.0（あてはまる）を「基準点」と設定しました。

（２）評価項目及び評価結果

評価項目について、今年度は文言の整理や、今年度のグランドデザインに沿った内容に変更しておりますので、評価結果については、昨年度との単純比較はできません。

評価結果について、全項目において基準点 3.0 を上回っており、とても高い評価を得ていることがうかがえます。今後も、保護者の皆様と手を携え、学校運営を推進し、学校教育活動の充実を図りたいと考えます。一方で、「分からない」という回答の割合が高い項目については、内容や対応の工夫改善に努めていきたいと考えます。

（全体平均点 3.5）

◎最も評価点が高い項目

【No. 3 学校は、通知表「成長の記録」について、学習成果等を分かりやすく書いていますか。】

3.8

通知表について、児童生徒の成長の様子、手立てや目標達成に向けた過程を分かりやすく記載していることや、保護者との懇談において丁寧かつ具体的な説明により、共通理解が得られていると考えます。

●「分からない」の回答が 10%を超えた項目

【No. 1 学校は、働き方改革を進め、業務の効率化・合理化・組織化等により充実した教育活動を行っていますか。】 15.1%

要因として、質問内容が学校内部の側面が大きいことから、中身が見えにくく回答しづらいことが考えられます。質問内容の見直しとともに、働き方改革の取組の見える化を進め、より一層保護者と協力、連携し、教育活動の充実につなげていきたいと考えます。

【No. 11 学校は、地域の人的・物的資源を活用し、地域や関係機関と連携した活動を行っていますか。】 15.1%

要因として、情報発信や広報活動の不足が大きいことが考えられます。地域資源の活用や地域との連携した取組について、各種便り、各種懇談・研修会、HP等で積極的に発信し、「地域とともにある学校」の実現に努めていきたいと考えます。

（３）自由記述（学校の在り方や取組の改善・充実に向けた方策）について

次のとおり、幾つか意見や方策が提示されました。学校内でしっかりと共有し、緊急性のある事項や容易に改善でき高い効果が期待できる事項については、次年度に向けて検討し、具体策を講じていきたいと考えます。

■バスの運行時間について、決められている時間よりも早く周らないでほしい。

→児童生徒が利用するバス停については、原則、定刻通り通過しております。ただし、年間通じて誰も利用しないバス停や、事前の連絡を受け、その日に誰も利用しないバス停については、設定時刻よりも早く通過することがあります。今後も、事前に登録、連絡いただいたバス停での確実な乗車と安全を優先し、定刻運行を目指しますのでご理解をお願いいたします。

■校外活動時における熊出没時の対応について周知してほしい。

→校外活動について、児童生徒の安全を十分に考慮し実施しております。また、現在、熊出没時のマニュアルを作成中ですので早めの情報発信に努めてまいります。それ以外の危機管理に関わる対応についても、基本事項等を周知できるよう進めてまいります。

■経費削減は無駄を省く程度にさせていただき、具体的には、宿泊研修の行き先変更、プール学習の中止、バス・ホテル代金の不足時の対応として足りない分は、PTA 会費の値上げを検討してほしい。

→今年度の PTA 会費の決算状況や道費の運用（北海道教育委員会の旅費の配分）状況を踏まえ、PTA 役員会で十分に検討し、次年度の PTA 総会にて PTA 会費や予算（案）等を提示したいと考えています。また、引き続き、外部機関や関係施設の状況を把握するとともに、学習の目的を明確化させ学習効果のある活動の実施に努めてまいります。

■宿泊行事では、親が写真を撮れないため教員が撮影した写真（データ）を販売してほしい。

→制度上、販売することができません。現在、写真については学級通信等に掲載しておりますが、その他の方法について、個人情報の取扱いや教職員の業務等を踏まえ検討したいと考えています。

2 学校自己評価【教職員】について

（１）回収率及び基準点

回収率は 100%でした。また、評価点 3.0（あてはまる）を「基準点」と設定しました。

（２）評価項目及び評価結果

今年度、教職員評価については学校評価の主旨を踏まえ、昨年度とは異なり、個人の視点からではなく学校としての視点で評価を行うこと（主語を、「私→学校」に変更）としました。

また、評価項目について、今年度は文言の整理や今年度のグランドデザインに沿った内容に変更しているため、評価結果については、昨年度との単純比較はできません。

（全体平均点 3.0）

◎基準点 3.0 を上回る項目（No.1-3、5、7、8、9、10、13、17）

上記項目について、教職員の意識の高さが学校全体の取組として機能していることや、各取組の PDCA サイクルの確立が進められていることがうかがえます。今後も、個業と組織業のバランスを保つとともに、目的と効果を照らし合わせ、学校運営の推進及び学校教育活動の充実に努めたいと考えます。

●基準点 3.0 を下回る項目 (No. 1-1、1-2、1-4、1-5、3、4、11、19)

上記項目の中で、「あまりあてはまらない(2点)」、「あてはまらない(1点)」の割合が20%を超える項目についての対策は、次のとおりです。

【1-1 学校は、働き方改革を進め、業務の効率化・合理化・組織化等により充実した教育活動を行っている。】2.8

働き方改革について、教職員の意見を総合すると、「個の意識」、「業務の偏り」、「組織体制の見直し」など改善の余地が大きいため、学校経営方針に設定し、改善を図りたいと考えます。また、業務スケジュールを活用、可視化することでタイムマネジメントを高め、より組織的な対応につなげたいと考えます。

【1-4 学校は、環境の整備や節約について取り組んでいる。】2.9

節電の対応については、毎月事務部より電気料金一覧が提示されています。各使用教室の節電や安全安心な環境整備について、全教職員が意識し続けることが重要であると考えます。また、校舎増築をきっかけに、個人及び各部署で整理整頓、不要物等の処理・処分を確実にやりたいと考えます。

【1-5 学校は、同僚の心身の健康維持に気を配り、業務を行っている。】2.7

学校経営方針の重点項目を整理し、これまで以上に互いに信頼し合い、学び合い、支え合える関係性を構築し、同僚性を高められるよう状況の改善を図るとともに、体系的な研修の実施等により、チーム力が発揮しやすい環境づくりに努めたいと考えます。

【3 学校は、ICT 機器の活用や学習評価をとおして、学習指導の工夫・改善を行っている。】2.9

ICT 機器の活用については、今年度実施した校内研修(任意参加)を踏まえ、学習効果や指導力の向上につなげたいと考えます。次年度も、ICT 教育推進委員会等を中心に教職員の実態やニーズに応じた研修の実施につなげたいと考えます。

【19 アサーティブでやさらかな心があり、教職員にとって働きやすい学校である。】2.7

それぞれの立場、経験、指導観、教育観の違い等を認め、自他を尊重する意識を強くもつことが重要であると考えます。併せて、対話や建設的な話し合いをとおして相互理解を深めるとともに、運営委員会や各種校内研修を活用し心理的安全性が高い組織づくりに努めたいと考えます。

(3) 自由記述欄(学校のありか改善・充実に向けた方策について)

多くの意見や方策が提出されました。緊急性のある事項や、容易に改善ができ高い効果が期待できる事項については、次年度に向けて検討するとともに、実施可能な取組については随時実施し、改善を図っていききたいと考えます。

また、上記(2)で触れた項目以外の2項目についての対策は、次のとおりです。

【4 学校は、児童生徒に対して適切な言葉遣いや態度、身だしなみで指導・支援を行っている。】

■児童生徒への呼び捨てや、不適切な発言などを改めていくことが必要である。

→それぞれが自身の言動に自覚と責任をもつとともに、適宜及び定期的(会議や打合せ等)に発信し、同僚同士での意識啓発を促進していききたいと考えます。

【12 学校は、社会情勢を踏まえ、保護者と教職員が連携し、PTA 活動を行っている。】

■PTA 活動において保護者等が主体となって取り組めるようにし、教職員の負担を軽減したい。

→PTA 役員や学校運営協議会において課題意識を共有し、保護者が企画、参加、協力しやすい働き掛けや活動等の工夫を講じていきたい。